

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670700418
法人名	社会福祉法人山形虹の会
事業所名	グループホーム かけはし
訪問調査日	平成 19 年 8 月 9 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 10 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月26日

【評価実施概要】

事業所番号	670700418
法人名	社会福祉法人山形虹の会
事業所名	グループホーム かけはし
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市民田字代家田100-1 (電話) 0235-25-1131

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年8月9日	評価確定日	平成19年10月10日

【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	① 平成12年4月1日	②③ 平成14年11月1日
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計 27 人
職員数	28 人	常勤 22 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 21 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	新築・増築
建物構造	①鉄筋平屋 ②③木造平屋	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500円(650/日×30日)	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	27 名	男性 6 名	女性 21 名
要介護1	2 名	要介護2	11 名
要介護3	8 名	要介護4	3 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 77.3 歳	最低 61 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鶴岡協立病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「民田なす」の産地として有名な緑豊かな環境の中にあり、のどかで人情味あふれる地域の方々に見守られながら、また、併設の老人保健施設やデイサービスセンターとの様々な連携にも支えられ、安心して暮らすことができるホームです。
歌ったり踊ったりできる活動的な楽しいユニット、静かで落ち着いた雰囲気の中でゆったりと過ごせるユニットなど、利用者の今までの生活やそれぞれの思いを大切にしながら日々のケアが進められてきており、また、併設施設や地域との交流、多彩なサークル活動やクラブ活動を通じた「張り合い」や「生きがい」づくりにも取り組んでいるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題はありません。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ユニットごとに学習し、各項目ごとに職員の意見を出し合いながら自己評価を行っている。
	重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、活動報告、事故報告、行事予定などを議題として2ヶ月に1回開かれているが、サービス提供側(職員、管理者、法人代表)以外の会議構成メンバーは、利用者家族と老人クラブ代表のみとなっているため、会議構成メンバーに、市町村の担当者、地域包括支援センター職員、民生委員など、地域に密着した活動を行っている異なる立場の方も加え、より多角的な観点から出される意見等をサービス向上に活かしていくことが期待される。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情担当の職員の名前をフロアに掲示し、家族の面会時や定期面談の際に意見を聞いている。	
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 夏祭り、忘年会等を行い、地域の保育園児やボランティアの協力を得ながら交流に努めている。また、グループホームの収穫祭には、お世話になっている老人クラブ会長も招待している。	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	5つの項目をホームの理念として掲げているが、「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく」という、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を作り上げるまでには至っていない。	○	地域密着型サービスとしてグループホームが担っている役割について検討しながら、その役割を事業所独自の理念の中に反映していくことが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念として5つの項目を玄関や職員の目につきやすい事務所に大きく掲示しており、「このままでよいのか」を振り返りながら日々の業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り、忘年会等を行い、地域の保育園児やボランティアの協力を得ながら交流に努めている。また、グループホームの収穫祭には、お世話になっている老人クラブ会長も招待している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットごとに学習し、各項目ごとに職員の意見を出し合いながら自己評価を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、活動報告、事故報告、行事予定などを議題として2ヶ月に1回開かれているが、サービス提供側(職員、管理者、法人代表)以外の会議構成メンバーは、利用者家族と老人クラブ代表のみとなっている。	○	会議構成メンバーに、市町村の担当者、地域包括支援センター職員、民生委員など、地域に密着した活動を行っている異なる立場の方も加え、より多角的な観点から出される意見等をサービス向上に活かしていくことが期待される。

山形県 グループホームかけはし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>認知症サポーターキャラバンの養成員育成に参加し、実習を受け入れている。また、市の介護保険連絡協議会グループホーム部会にも参加しているため、アドバイスを受けることができる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月お便りをつくり、暮らしぶりや職員の異動などを載せており、伝言コーナーにはそれぞれの利用者の健康状態も記入されている。また、請求書や金銭出納帳も各家族に送って報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情担当の職員の名前をフロアに掲示し、家族の面会時や定期面談の際に意見を聞いている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動がある場合は、引継ぎを正確に行い、利用者や家族へも報告されている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の計画をたて、認知症、応急手当、介護計画などについての勉強会が毎月行われており、併設の老健施設の学習会参加や資料で勉強している。また県内のグループホーム連絡協議会の研修会報告書の回覧もなされている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県内のグループホーム連絡協議会に参加し、交換実習等を行っており、また、市内のグループホーム部会の研修会で交流を図っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や料理など昔からの知恵を聞きながら、また、昔からの季節の行事や風習などの話も聞きながら過ごし、職員、利用者と共に料理、畑作業を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を本人や家族から聞き取り日々の活動に取り入れており、近くのパン屋さんまで毎日散歩に出かけたり、ドライブや買い物、墓参りなど、一人ひとりの思いや希望に配慮した支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族面談や本人との会話の中で出された意見を踏まえながら、毎月の担当者会議で話し合い、その人らしい介護計画を作成している。また、栄養士、言語聴覚士、理学療法士とも必要に応じて相談を行い、嚥下障害のある方の食事提供やリハビリ計画の作成も行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月～6ヶ月の間で定期的に担当者会議を開催し、家族や関係職種への相談と説明を行いながら介護計画を見直している。		

山形県 グループホームかけはし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	協力医療機関がかかりつけ医になることが多く、定期的な受診を支援している。また、眼科、皮膚科、歯科は他の診療所に通院している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	介護サービス契約を結ぶ際に「契約の終了」の条文を示し、「重度化した場合には併設の老人保健施設を利用できる」という内容の説明にとどまっている。	○	「重度化した場合における対応の指針」および「看取りに関する指針」等を整備し、ホームで掲げている「医療連携体制」のもつ機能を十分に発揮しながら、重度化や終末期に向けた方針の共有にも活用していくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーが確保できるように努めており、お便り等に写真を載せる場合は事前に了解をもらうようにしている。また、方言を交えた話しかけも取り入れながら、家族の一員のように生活できるよう心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意見を取り入れながら、利用者自身が自分の仕事と思っていることについては、職員は声がけにとどめるようにしている。また、買い物、散歩の希望があれば、できるだけ希望にそうように支援している。		

山形県 グループホームかけはし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれが出来ることの役割を分担し、職員と一緒に食事の準備、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い等を行っている。また、月に1度外食にも出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	「お風呂は最初に入りたい」「お風呂は明るいうちは入れない」といった一人ひとりの声にも耳を傾けながら、ゆっくり入浴できるように個別の支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や職歴を活かし、「自転車屋さんは車椅子の空気つめ」「時計屋さんは施設やグループホームの時計あわせ」などの役割をそれぞれに持っている。また、「歩こう会」やゲートボールなどのサークル活動、書道、パッチワークなどのクラブ活動へも参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ふらっと散歩に出かけてみたり、ホームセンターに本人が欲しい物を買に行ったり、本が好きな人と図書館に出かけたり、外出の支援が日常的に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	職員は必ず一人はフロアにいるようにしており、センサーも取り付けられている。また、利用者が外に出て行きそうな時には、職員も一緒に付き添うようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体の災害訓練を、昼夜を想定し行っている。また、職員は、消防学校の1泊2日の体験入校にも参加し、「想定訓練」を受けている。		

山形県 グループホームかけはし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を作成し、食が進まない人や水分摂取量が少なめな人については、お茶、スポーツドリンク、プリン、ゼリー、果物等を用意している。また、嚥下状態に合わせた形態の食事の提供も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールには、サークルやクラブ活動で作った作品を飾ることにより季節感や生活感が演出されており、2ユニット共用の洗面所は食器棚などで仕切れ、丸見えにならないよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたダンス、テーブル、鏡台、写真、洋服掛などが持ち込まれ、居心地よく暮らせるように工夫されている。		